

# 老健にいがた

第47号

2020. 2 Vol. 47



通所リハビリご利用者様の作品「ねずみの置き物」です。  
大江山園

## 目次

|                         |       |                         |       |
|-------------------------|-------|-------------------------|-------|
| 巻頭 言                    | 1     | 市民公開セミナー                | 12    |
| 協会だより                   | 2     | 新潟県介護老人保健施設大会           | 13~14 |
| 特集：嚥下食レシピ全国コンテスト3連覇について | 3~6   | こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～ | 15~18 |
| 令和元年度 研修会報告             | 7 ~11 | みんなの広場                  | 19    |

# 卷頭言

## 老いについての雑感

新潟県介護老人保健施設協会 監事

越 南 苑 石 田 央



生老病死は仏教で言う「苦」とまでは言わないが生物の宿命であるように思われます。生がなければ生物は存在しないであろうし、老は生物にあらかじめ組み込まれたプログラムであるようです。例えばある細胞を培養によって増殖させると、ある時点まではさかんに増えるが、やがて増殖は止まってしまうという事を聞いたことがあります。これが老いの原理であろうことは推測できます。病と言えば誰もが「癌」を想起するでしょうが、これとて細胞分裂という生物の重要なメカニズムに乗っているわけですから、このメカニズムを否定すれば生物は成り立ちません。次に死ですが古の偉人は申しました。「この世の中に絶対確実というものは存在しない、但し死と税金は例外である」と。まことにうがった名言であると感心しております。生きると言うことはこういうことですので、この真実を否定したり高望みしたりすると悩みに突き当たることになります。良寛様は「災難に遭う時節には災難に遭うがよく候。死ぬる時節には死ぬがよく候。これはこれ災難を逃るる妙法にて候。」と言われたそうです。このように達観できれば怖いものは無くなるでしょう。

さて最近は老人の交通事故問題が盛んに取り上げられます。これは認知症と関係があるように思われて、75歳を過ぎると運転免許更新の条件として記憶を中心とした認知症の検査が行われています。記憶といっても経験の記憶と技能の記憶は異なると言われており、運転技能は手続き記憶と言われ、いわば水泳や自転車運転などと同じ身体の記憶であると言われています。一方、認知症検査において物の絵を見せて後で覚えているか否か問うテストなどは意味記憶といって、この二つは記憶の種類が異なると言われております。即ち意味記憶能力が衰えても運転はできるし、いわゆる意味記憶が保たれていてもうまく運転ができるとは限らないのです。老人の事故の場合も色々のパターンを考えられ、何も一つの原因では無いと思われます。老人の交通事故イコール認知症と考えるのは短絡的ではないでしょうか？

重大事故の一部は自動性と意図性の乖離現象が考えられます。手続き記憶がある場面で意図性を強いられて、自然状況下で可能な動作が意図的状況下で遂行できなくなる場合です。例えば駐車場で慎重に駐車しようとしてアクセル、ブレーキ、その順序などを強く意識した結果自動運動が遂行不能となり重大な事故となってしまったと考えられるものも有るようと思われます。

一律に老人と認知症、運転を結びつけるのではなく個々の状況に応じ精査が必要と思われます。



役員当時の写真です

協会発足時の平成2年度より平成22年度まで、協会役員として協会の発展にご尽力いただきました医療法人至誠会 老人保健施設やすらぎ園の前理事長 荒川修二先生が令和元年8月25日に永眠されました。

ご冥福をお祈りいたします。

平成2年度～平成3年度 協会副会長  
平成4年度～平成11年度 協会会長  
平成12年度～平成22年度 協会監事

## 令和2年度「新潟県介護老人保健施設大会」開催のお知らせ

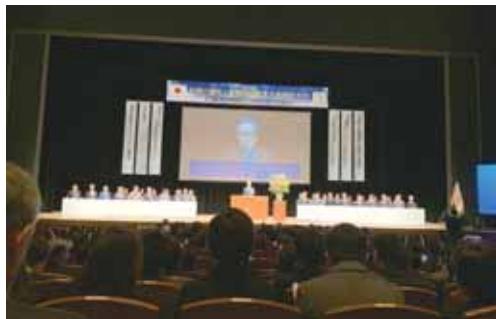
開催日時 令和2年11月6日（金）午前10時より（予定）

会 場 新潟ユニゾンプラザ

参加受付 令和2年7月中旬より参加受付開始予定

公開セミナー 同時開催

## 全国介護老人保健施設大会について



【開会式】

第30回全国介護老人保健施設記念大会 別府大分は、令和元年11月20日（水）～22日（金）別府ビーコンプラザ、iichiko総合文化センターほかで開催され、令和元年度公益社団法人全国老人保健施設協会表彰（個人表彰）として、にいがた園の吉野達夫氏に授与、昨年度埼玉大会で発表した緑樹苑『Let's InBody!～栄養スクリーニング評価からの栄養改善の取り組み～』について奨励賞が授与されました。

## 第31回全国介護老人保健施設大会 宮城

「地域で生き抜くを支える 今、老健が進む道

～災害（震災）と認知症から学ぶ地域共生社会の姿～」をテーマとして令和2年11月11日（水）～13日（金）まで仙台国際センターにて開催される予定です。



嚥下食レシピの全国コンテストで最高賞のレシピ大賞を3年連続受賞いたしました  
サンプラザ長岡のメニューを紹介させていただきます。

## 嚥下食レシピ全国コンテスト3連覇達成への道



介護老人保健施設 サンプラザ長岡

管理栄養士 内山 貴子（2段右から2人目）

調理師 阿部 徹（3段右から1人目）

調理師 水澤 慶太（3段左から2人目）

創立30周年を迎える当施設では、利用者様の重症化が目立ち、常食の方は25%に過ぎません。そのため、一番の楽しみである食事支援に力を注ぎ、年々需要が高まる嚥下食に力を入れ日々工夫を続けています。日頃の頑張りの成果を試そうと考え、病態別食品の開発・製造・販売を行なうニュートリー株式会社主催の「嚥下食レシピ大賞」に応募しました。その結果、今年で3年連続レシピ大賞を受賞するなど快挙を成し遂げました。ここでは、嚥下食の取り組みとその成果を報告します。



① 第7回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞受賞作品（2016年）  
盛り付け技術部門 レシピ大賞受賞

### 「タレカツ丼」

#### [メニュー開発の目的]

新潟では親しみのある味であり、ミキサー食を召し上がっている利用者様にも、「嚥下食でより一般食に近いタレカツ丼を食べていただきたい！」という思いでレシピを開発しました。

#### [ポイント]

実際には揚げずに作ります。衣の部分はよりリアルに再現しあつ飲み込みにも配慮して作りました。

#### [利用者様からの声]

月1回行われている選択メニューで提供したところ、食事介助をしていた職員と共に「ミキサー食じゃないみたい！！」と大変驚かれ、パクパク喜んで完食されていました。





② 第8回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞受賞作品（2017年）  
施設のおすすめ嚥下食部門 レシピ大賞受賞

## 「洋梨とピスタチオのケーキ～ショコラdeグラサージュ」

### [メニュー開発の目的]

当施設は年7回「喫茶いこい」という行事があり、手作りのケーキを利用者様とそのご家族様を対象に100円で提供しています。その際に食形態レベルが低い利用者様にも、「パッと見てケーキと分かるものをご家族様と一緒に食べていただきたい！」その思いでこのメニューを開発しました。



### [ポイント]

見た目・香り・味わいで、食欲・興味をそそるケーキに工夫しました。ミルキーなパンのムースと、香ばしいピスタチオのムースに、ビターなチョコレートと爽やかな洋梨の味わいがベストマッチです。

### [利用者様からの声]

作成に大変時間がかかるため10食限定で提供したところ、ご家族様と共に「うめえてえ」と喜びの声が聞かれました。



③ 第9回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞受賞作品（2018年）  
施設のおすすめ嚥下食部門 レシピ大賞受賞

## 「黒崎茶豆のフラン」

### [メニュー開発の目的]

これまで和風の茶わん蒸しばかり提供していましたが、ここ数年利用者様より洋風料理のリクエストが多いということもあり、洋風茶わん蒸しを開発しました。そして、今回このメニューを作るにあたり、「利用者様全員に同じものを食べていただきたい！」と考えチャレンジしました。



### [ポイント]

土台のフランは黒崎茶豆のほんのりとした甘さを青汁入りの豆乳が引き立て、コンソメ汁のあんが全体を1つにまとめてくれる味になっています。そして長岡野菜が全体を華やかにし、トロハロースで色彩を保たせています。さらに、フランの上に温かいあんをかけバジルソースを飾ることで爽やかな香りを楽しむこともできます。

### [利用者様からの声]

まず見た目がきれいなことに驚かれ、食べると黒崎茶豆の風味がぐっと口の中に広がり「おいしい」と皆さま完食されていました。

次ページからは受賞した作品を紹介します。

嚥下食レシピ大賞は、令和元年で第8回目を迎えた嚥下食のコンテストで、全国より48施設90作品の応募がありました。応募部門は、「施設のおすすめ嚥下食部門」と「おうちで出来る嚥下食部門」の2部門に分かれ、盛り付けや彩り・飲み込みやすくするための工夫・栄養価を上げるための工夫・調理上の工夫など、嚥下食のプロによる先生の採点のもと各応募部門、レシピ大賞が1施設・レシピ賞が2施設選ばれるコンテストです。

第4回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞（2013年）



主食部門 レシピ賞受賞  
「いなり寿司」

第5回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞（2014年）



エピソード部門 レシピ賞受賞  
「メンチカツ」

第6回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞（2015年）



エピソード賞受賞  
「ごちそう茶碗蒸し」

嚥下食メニューコンテスト（2016年）



一般料理部門 部門大賞受賞  
「海鮮タルタル～バジルソース添え」

第7回ソフティアを使った嚥下食レシピ大賞（2016年）



エピソード部門 レシピ賞受賞  
「モーニングプレート」

嚥下食メニューコンテスト（2017年）



奨励賞受賞  
「越後ハーブ鶏ゼリー  
～カクテルサラダと共に～」

嚥下食メニューコンテスト（2017年）



奨励賞受賞  
「ふあふあショートケーキdeグラサージュ」

第8回ソフトニアを使った嚥下食レシピ大賞（2017年）



おうちでできる嚥下食部門 レシピ賞受賞  
「お家で簡単海鮮ユッケ  
～越後長岡味噌ソース仕立て～」

嚥下食メニューコンテスト（2018年）



行事食部門 優秀賞受賞  
「ホタテとアボカドのビシソワーズ  
～新鮮長岡野菜を添えて～」

嚥下食メニューコンテスト（2019年）



行事食部門 部門大賞受賞  
「サーモンコンフィ  
～長岡 Vegetable Style～」

嚥下食メニューコンテスト（2019年）



奨励賞受賞  
「彩リリース  
～フルーツゼリー&抹茶ババロア」

# ノーリフティングケアマネジメント研修会および ノーリフティングケアマネジメントフォローアップ研修会

一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク代表理事の下元佳子氏をお招きし、ノーリフティングケアマネジメント研修会およびノーリフティングケアマネジメントフォローアップ研修会が行われました。

開催日：令和元年7月22日(月)

会場：長岡介護福祉専門学校 あゆみ

参加施設：14施設

参加人数：43名

ノーリフティング実践マニュアルより「必要性と目的」を再確認し、各施設に分かれ現状や課題を抽出。5か月後の施設を見据えて実施計画を作成いたしました。また会場内では、各施設のノーリフティングケアについての取組みがポスター掲示されました。



スライディングシートやボード、リフトなどの福祉用具を使用した介護技術の習得等、積極的に取り組まれていました。



## ～参加者の声～

- ・技術面において間違った認識で行っていることもあり、今後介助方法の見直しが立てられた。  
ノーリフティングケアについて再認識し、リスクマネジメントを考えることが出来た。
- ・ノーリフティングケアの目的目標を理解することが出来た。職員への伝達には、方法の前に「学ぶ理由・目的」を理解してもらい一緒に勉強することが大切だと思った。
- ・フォローアップ研修会として参加させていただきました。まだ取り組めていない所の再確認が出来ました。
- ・福祉用具のリフト移乗を見ることが出来た。腰痛予防のリスクマネジメントがなんとなくわかった。下元先生の話が上手で分かり易かった。

# 人材育成研修会

今回は、東京海上日動ベータライフサービス株式会社ソリューション事業部課長小林隆雄氏と、一般社団法人セルフアドヴァンス協会代表理事水科江利子氏の2名をお迎えし、入職5年以内の職員を対象とした「人材育成研修会」が講義・演習で行われ、講習の最後にはグループワークも行われました。

開催日：令和元年8月23日（金）  
会場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：18施設  
参加人数：26名

## \*午前の部

### 「感情コントロールが人間関係をより良く変える！」

～「私たち」から始める働きやすい職場づくり～ 小林 隆雄 氏

様々な人間関係の中で生まれる、マイナスな感情についてのコントロールの仕方、なぜそのような感情が生まれてしまうのかについて、お互いに意見を交換し合いながら講義は進みました。自分と相手が互いに持っている価値観「～べき・～はず・～たい」の違いを知り、価値観が相手とは違うことで自らマイナスな感情を生み出していることを知りながら、コントロールの仕方や、コミュニケーションについて学ぶことができました。



## \*午後の部

### 「心と体のメンテナンス、ケアする人のケア」 水科 江利子 氏



午後の部では資料はほとんど使わず、終始体を動かし、お互いに体操やマッサージをし合う等、参加者同士の笑い声も聞こえてくる講義でした。ケアする人のケアという内容の中で、私達もそれぞれに自分の中に違った感覚や感情があり、そのバランスを崩さないよう、自分が自分を認めてあげること・見てあげることが大事な自分へのケアなのだということを学びました。体をほぐしながら、心をほぐし、脳と心と体の関係性について深く学べる講義でした。



## ～参加者の声～

- ・とても参考になる研修会でした。自身の「はず・べき・たい」に気付くこと、相手の「べき・はず・たい」を尊重することで日頃の業務を円滑に進めていきたいと思います。
- ・頭（脳）も身体もほぐれて、とてもリフレッシュできました。ストレスを溜め込まないようセルフケアを行なっていきます。
- ・仕事中に常に抱いていたマイナス感情を消化するためには、自身の気持ちとの付き合い方が重要であることを学びました。まずは「相手を認める」ことから始めてみようと思います。

# 介護報酬改定説明会並びに消費増税対策研修会

令和元年10月の消費税率引き上げに伴う介護報酬改定に先立ち、全国老人保健施設協会 社会保障制度委員会介護報酬部会 部会長 漆間伸之氏にご講義いただきました。

開催日：令和元年9月6日(金)  
会場：ホテルイタリア軒  
参加施設：69施設  
参加人数：99名



## うるま のぶゆき 漆間 伸之 氏 プロフィール

社会福祉士・介護支援専門員

# 全老健 社会保障制度委員会 介護報酬部会 部会長 神奈川県介護支援専門員協会 副理事長

平成 30 年 9 月～

特定医療法人研精会 法人本部地域連携部長  
稻城台病院事務局長 兼仟

まずは平成30年介護報酬改定の検証結果について、「超強化型」「強化型」「加算型」老健が増えてきているということと、その一方で「その他型」老健については、基本報酬が低く各種加算も算定できないため、できるだけ早く「基本型」老健になる必要があるとおっしゃっていました。

そして令和元年度介護報酬改定で新設された「介護職員等特定処遇改善加算」について、算定期要件や賃上げ額と配分ルール等の説明があり、法人の裁量によるところが大きいため、施設職員に加算の概要と配分ルールについてしっかりと理解していただけるように丁寧に説明をしてくださいとアドバイスをいただきました。

次期介護報酬改定のポイントとしては、リスクマネジャーの評価と科学的介護の評価(CHASE)、老健施設の課題(政策)としては、1.回復期リハ・地域包括ケア病棟から老健施設への実現、2.通所リハビリにおける大規模減算の撤廃、3.高額な薬剤の医療保険適用、4.所定疾患施設療養費の対象疾患の拡大、5.透析・難病の利用者受入対応の充実、6.働きやすい現場の環境整備を示されました。



# 施設職員のための認知症ケアにおける リスクマネジメント研修会

株式会社 安全な介護 代表取締役 山田滋 氏をお迎えし、施設職員のための認知症ケアにおけるリスクマネジメント研修会が行われました。

研修は、介護のリスクマネジメントに関する基礎知識、認知症ケアの基礎知識から始まり、『認知症利用者の事故防止対策』として“転倒、誤嚥、異食、行方不明、加害行為、アセスメント不足による事故”について紹介いただきました。また、『事例



から学ぶ認知症ケアを活用した事故防止対策』として実際の事例からBPSDの要因を分析し、事故防止対策へと繋げていく取り組みのポイントについて、わかりやすく説明いただきました。「防ぐべき事故と防げない事故を区分し、防ぐべき事故に対して防止策を講じることが、介護の事故防止活動の原点である」と山田氏は事故防止の考え方についておっしゃり、介護現場で起こる事故と日々向き合っている参加者の皆様にとって有意義な研修であったと思います。



## ～参加者の声～

- ・実際の事例が多く、分かりやすく理解できた。現場でも出来そうなことがあったのでやってみたいと思いました。
- ・利用者と関わる際、転倒を防ぐ・転倒させないという事をよく考えます。今回は、防げないものもあるのだと学べてよかったです。
- ・現場であること、困っていることがテーマにあり、分かりやすかったです。薬について触れていただいたことが参考になりました。
- ・誤薬をしない為に顔写真や薬写真を一緒にしておくことで、誤薬が少なくなることを聞いて当施設でも検討していきたいと感じました。
- ・実際に事故を防ぐための方法を見せていただき、施設で使えるものが多くありました。

# R4研修会

今研修は、全国老人保健施設協会より山野雅弘氏（紀伊の里 施設長）をお迎えし、R4や電子カルテの活用、ICFステージングの内容や評価のポイントなどの内容の講義がありました。また山野氏より「R4システムは、利用者の自立支援の促進や情報共有が行え、介護・ケアマネジメントの質の向上につながる」とお話があった他、紀伊の里でのR4を導入した経緯や現在に至るまでの経過の説明もあり、参加者はイメージしやすい内容でした。

会場内の各テーブルにパソコンを設置し、参加者は実際に操作を行ながら講義を受け、学びを深めていました。

最後に、サンプラザ長岡からの「R4システムの取り組み」についての事例発表が行われました。R4導入の経緯や施設での取り組み、在宅復帰に向けて有効だった点などの説明がありました。

開催日：令和元年12月17日（火）  
会場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：24施設  
参加人数：47名



サンプラザ長岡 春日氏（左） 平澤氏（右）

## ～参加者の声～

- ・講義の他、実際にパソコンを操作することで、R4の内容やICFステージングのポイントなど基本的なことを学ぶことができました。
- ・今後、R4を導入予定です。導入にあたり、システムの変更やパソコン入力など様々な不安があるなかで受講しました。紀伊の里やサンプラザ長岡の取り組みを聞くことで、とても参考になりました。
- ・R4は引き続き、研修会を開催してもらいたいです。他施設の取り組みや具体的な運用事例などが聞けると嬉しいです。

# 長寿時代をよく生きて、よく逝くために

今年度の市民公開セミナーも新潟県介護老人保健施設大会と同日の令和元年11月1日(金)に新潟ユニゾンプラザにおいて、講師に志藤洋子氏をお迎えして開催されました。

## 〈志藤洋子氏 プロフィール〉

新潟市出身。

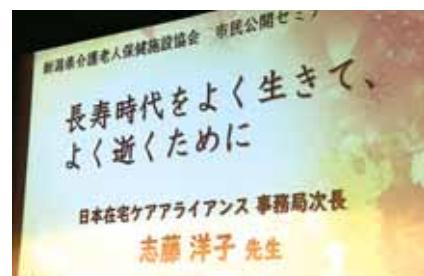
大学卒業後、出版社勤務を経て、1991年から「Productive Aging」の理念を掲げるILCアライアンス日本センターに勤務。超高齢社会における高齢者の在り方、社会の価値観の改革を目指して、国際比較調査に基づく啓発活動を担当。2000年から2018年までILC-Japan事務局長を務め、同年3月に退職。

2018年4月からは、日本在宅ケアアライアンスの事務局立ち上げに関わる。



戦後70年を経て、日本人の平均寿命は30年近く伸びた。経済的な発展によるインフラの整備、国民の勤勉さによる公衆衛生の徹底、健康意識の向上などに加えて、戦争や災害に脅かされない国であったこともその大きな理由であり、それは世界に誇って良いことである。しかし「健康寿命」という新しい概念で捉えると、平均寿命との差は男性9年、女性12年もあり、その差を縮めることが容易ではないこともわかってきていている。健康寿命を決める生活機能の低下要因には男女差があるが、「認知症」や「老化による衰弱(フレイル)」は男女ともに共通した重要な要因となっている。フレイルは可逆的な要素が強いため、対策に自覚的に取り組むことにより先送りが可能なので、ぜひ積極的に取り組んでいただきたい。身体的、心理・認知的、社会的と多面的な要素を持つフレイル対策としては、栄養・身体活動・社会参加が大事である。その中でも人とのつながりが重要になっており、運動習慣がない人でも人とのつながりがあるとフレイルになるリスクが下がる。

「長い老い」を生きることは、病や障害と折り合いをつけて、天寿を全うすることになる。そのためには、人は死ぬものであることを知り、病状を知り自分の価値観に基づいていきたいのちの選択をする、尊厳ある暮らしに何が重要か、自分の人生をどう生ききりどう終うか、Advance Care Planning=人生会議をしておくべきである。ヒトは、進化の過程で「死のプログラム」を獲得して安らかに死を迎える仕組みが備わっている。死に対して不安になった時には、「死にゆく力」を邪魔せず、最大限に引き出すことが穏やかな死を導くために必要である。志藤氏が得てきた様々な経験や知識をわかりやすくまとめて話していただき、考えさせられるセミナーとなった。



## ～参加者の声～

- ・よく逝くために色々な方法があり、しっかり理由も含めて把握することが必要であると、貴重な話を聞くことができてためになりました。
- ・「死」を悲観的に考えるのではなく、「考えない方が縁起でもない」くらいに思って、ご本人も含めた意向のすり合わせをしていくことの重要性を感じました。
- ・とても良い勉強になりました。身体機能には動くことが大事だと思っていましたが、人の関わりも大事だということがわかりました。セミナーで学んだことをケアに活かしたいです。

# 令和元年度 新潟県介護老人保健施設大会

令和元年11月1日(金)新潟ユニゾンプラザにおいて“令和初”となる「新潟県介護老人保健施設大会」が71施設309名のご参加をいただき開催されました。

6会場(口演4会場・ポスター2会場)にて口演発表59題、ポスター発表12題が行われました。

新しい取り組みや日々のケアを見つめ直したものなど様々な内容の発表が行われ、緊張感のある中でしたが発表者は施設を代表して堂々と発表されていました。

## ●開会式●



新潟県福祉保健部  
副部長 三林 康弘 様



新潟県医師会  
理事 吉田 俊明 様



新潟県老人福祉施設協議会  
会長 高橋 是司 様

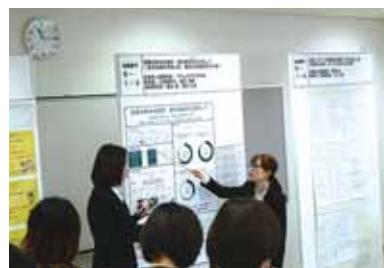
## ●永年勤続表彰●

当協会では、現在勤務している職員で15年以上の方を対象として表彰を行っております。今年度は、40施設170名の方が受賞されました。

受賞者を代表して、「白根ヴィラガーデン」の松木久施設長に、松田ひろし副会長より表彰状と記念品を授与いたしました。



## ●大会の様子●



### ～参加者の声～

- 各施設の特色、気づきなど様々で、職場に持ち帰って実践してみたい内容の発表でした。
- 多職種の色々な取り組みがあり、参加して良かったです。
- 皆さんご利用者的事情を考えた取り組みの発表をされていて、今後の仕事に役立つなと思いました。

# ～学術奨励賞演題～

| 演題                  | 施設名       | 発表者     |
|---------------------|-----------|---------|
| しっかり食べられてる？磨けてる？    | いわむろの里    | 荒 関 美 咲 |
| ごめんね。ちゃんと分かったよ。     | さくら苑      | 高 野 裕 太 |
| まとめてポイ！             | てらどまり     | 石 澤 優 倫 |
| ～眠剤への依存を見直す試みから～    | 常盤園       | 幸 田 ゆかり |
| 日常生活を見てほしい          | 豊浦愛広苑     | 高 橋 英 樹 |
| 食事介助中の誤嚥・窒息事故0を目指して | マチュアハウス中条 | 榎 本 優 香 |

(施設五十音順・敬称略)



学術奨励賞を受賞された皆様です

学術奨励賞の選考基準と各会場の座長の評価に基づき、学術研修委員会担当理事が選考して学術奨励賞を決定いたしました。

口演発表は各会場1題ずつ、ポスター発表は2会場で1題、参加者最多投票1題の計6題が選ばれ、受賞者は令和2年度通常総会で表彰されます。

## ～受賞者の声～

受賞者を代表して「さくら苑」高野 裕太 様に受賞した感想等をインタビューさせていただきました。

### Q 受賞した感想

A 会場にいた皆さんに見て聞いていただき、投票で選ばれたことが、とても嬉しく感動しました。

### Q 受賞を誰に伝えたい？

A 研究班のメンバーや、協力してくれた職員と上司、また研究に関わったご利用者やご家族に感謝を込めて伝えたいです。

### Q 研究発表においてアピールしたい点

A レビンチューブの自己抜去対策として、ポンポン手袋を使用しただけでなく、目線を変えて環境の工夫といったアプローチも加えたところです。

### Q 苦労した点

A ポンポン手袋を考えつくまでの試行錯誤している段階がとても苦労しました。また、レビン挿入体験も、本当に苦しく大変でした。

## 文化祭からつながるリハビリ

阿賀の庄  
理学療法士 伊井 良隆

阿賀の庄は、五頭山麓の風光明媚で緑豊かな自然環境にあり、四季の移り変わりを間近で感じができる場所にあります。

その阿賀の庄の年間行事のひとつとして、11月に開催される「文化祭」があり、折り紙や貼り絵、手芸など毎年工夫を凝らした作品が数多く展示されます。

今年は特に新聞紙で作った巨大な招き猫が目を引きました。ご利用者様が作品完成のために数ヶ月前から一生懸命に準備をしてこられました。作品を作るにあたって、指先を使うことが多く、ご利用者様同士で意見を出し合いながら取り組んでいました。文化祭の準備となると、いつも以上に意欲的に取り組んでいただける方もいらっしゃるなど、リハビリの一環としてもとても役に立つことだと感じています。

これからもご利用者様が快適で、有意義な生活を送っていただけよう職員一丸となって取り組んでいきたいと思います。



## 本格的な演舞を 楽しんでいただいている

越南苑  
看護師 亀倉 よし子



越南苑では、誕生会などのイベントの際に、名古屋で舞妓をしていた私の娘「亀の家 ゆき乃」がボランティアに来て、演舞を披露しています。日本髪に白塗りの本格的な姿での、地元の民謡や名古屋名物「金の鯧」は、利用者様には大変ご好評いただいています。利用者様の中で、若いころ舞踊の師匠をされていた方が音頭をとり、他の方も一緒に踊っていただくなど楽しい時間を過ごしています。最後には一緒に記念撮影



を行い、後日写真を見て利用者様同士やご家族と楽しそうに会話に花を咲かせる方もおられます。

これからも、利用者様の素敵なお笑顔が広がるイベントを考え、楽しんでいただきたい努力していきたいと思います。

## 生き生きハッピーライフ

大江山園  
介護福祉士 川島 基子

当施設の周囲には田んぼはもちろん、阿賀野川など自然豊かな景色が広がっています。夕方になると、ご利用者様のホールより綺麗なオレンジ色の夕日が望めます。

定員が176名と多く、さまざまな状態の方が入所されています。少しでも施設の生活を楽しんでいただけるよう、趣味・娯楽・お体の状態等を考慮し、レクリエーションに参加してもらっています。

職員による生演奏付のカラオケや、お花が好きな方には、週1回生け花クラブを開催し、ご自分の思い通りに生けていただきます。大きいお花を大胆に生ける方、色とりどりのお花を盛り沢山に生ける方など、その方の個性が光ります。



普段は、ご利用者様のお体の状態に合わせ、3棟で生活していただいておりますが、全棟合同での行事も計画しています。中でも秋祭りは、多職種協働で案を出し、ご利用者様・ご家族様が楽しめるかを考え、数か月かけて計画しています。なかでも、ボランティアさんによる太鼓演奏は毎年大好評をいたしております。演奏を聞いて涙を流される方も大勢いらっしゃいました。

大江山園の理念である“愛と奉仕の精神”的のもと、これからもご利用者様の皆様が生き生きと楽しく生活が出来るよう、お手伝いしていきたいと思います。



## ご利用者の「お元気」を目指して ～自立支援介護 四季折々編～

グリーンヒル与板  
主任介護職員兼  
介護支援専門員 高野 ひとみ

「水」「食事」「排便」「運動」の4つの基本介助の大切さを意識できるように、春は「運動」、夏は「水分」、秋は「食事」、冬は「排便」と、ご利用者と職員が共に意識し取り組めるように四季折々で企画をした自立支援介護を紹介します。

【春】♪春散歩♪と称したスタンプラリーを行い、ご利用者から歩行でも車いすでも施設内をどんどん散歩してもらう企画を行いました。

【夏】♪あと、もう一杯♪のポスター掲示で意識的に水分を飲んでいただきました。さらに「天然水の日」を設け、ご利用者と一緒に天然水を汲み、煮沸後に外来者も含めた皆さんに飲んでいただきました。

【秋】♪焼き肉ジュウジュウの日♪を設けました。いつもとは一味もふた味も違うライブキッチンで、ジュウジュウの音と匂いにつられ、皆さん普段より沢山召し上がってきました。また、1週間を通して秋の味覚のさつまいもを献立やおやつに取り入れ、食物繊維を摂っていました。

【冬】♪トイレ排泄推進標語♪を募集し採用された標語をトイレ内に掲示しました。「トイレでスッキリ 快腸！快朝！」「ぜひ来てね あなたの尻待っている」等々。

この4つの基本介助は、ご利用者にお元気を取り戻していただく方法として実施した一例です。今年度は、自立支援介護でご利用者の夢・希望を叶える取り組みを実施しています。



## 季節の実りで 楽しく美味しいひと時を

ケアポートよしだ  
介護福祉士 渡辺 佐智子  
作業療法士 戸川 生子

当施設のある糸魚川市は海・山に囲まれ美味しい食材に恵まれている地域です。入所されている皆様の中には畑や田んぼに精を出されていた方も多く、ご自分で作られた季節の美味しい野菜や果物などを調理し、楽しんでおられたお話をよくお聞きします。残念ながら当施設には入所者様が耕せる畑はないのですが、職員が自宅で収穫した野菜や果物を持ち寄り、少しでも季節を感じることができる機会を作っています。

写真は職員の自宅で採れた柿を干し柿にしている様子です。施設生活ではほとんど使うことのない包丁ですが、手に取ると慣れた手つきで皮をむき、ひもで上手に結んで吊るせるようしてくださいました。吊るされた後も時々柿を揉むよう指示が出るなど職員が教えていただくこともたくさんです。この干し柿作りは初めて行ったものなので完璧という出来栄えではありませんでしたが、それでも自分たちで作った自然な甘さが大好評でした。

他にも夏には職員の畑で出来たスイカを使ってスイカ割りやご家族様から差し入れして頂いた立派な梅での梅シロップ作りも行いました。材料が【糸魚川産】というだけで入所者様の表情が変わります。土がいい、水がいい、と住み慣れた土地への思いが聞かれます。これからも地元の季節の実りを入所者様と楽しんでいきたいと思っています。



## 地域と共に

夕彩の郷  
支援相談員 小鳩 真広

当施設は北蒲原郡聖籠町の次第浜という海沿いにある施設です。入所定員が119人、通所リハビリテーションの定員が34人、その他併設でショートステイ、デイサービスを運営しています。施設の屋上には足湯があり、レクリエーションの一環でゆったり足湯につかりながら日本海の壮大な景色を眺めるのはご利用者に人気があります。天気が良い日には佐渡ヶ島、粟島までの絶景が一望できます。



当施設では「地域の一員である施設」ということを大切に考え、レクリエーションと学生の学習も兼ねて年に数回程近隣の小学生、高校生との学生交流を行わせて頂いています。小学生との交流では学校にお招き頂き演奏や合唱の発表や小学生に来所してもらいご利用者と一緒に小学生が考えたゲームやかるた遊びなどで楽しみます。この様な交流を通してご利用者、職員も笑顔や活力をもらうと共に当施設や高齢者福祉施設のことを地域の方にもっと知って頂くように交流を進めています。今後も地域の一員として地域に根付いた施設を目指し努めたいと思います。

## 季節を感じて、 施設生活を楽しむ。

新潟市西区の田畠に囲まれたのどかな土地に開設して早18年が過ぎました。当施設の例年行事の一つに、5月の「ちまき作り」があります。作り方をまだ覚えている方もおり、他のご利用者様や職員に教えながら、楽しそうに作っていました。その日のおやつはもちろんその「ちまき」。様々な形で、場が盛り上がりその日の会話はいつも以上にはずんでいました。

春は西川周辺や鳥屋野潟へ花見に行きました。夏は花火見物に玄関花火にと、月ごとのイベントやボランティアの出し物など、



ご利用者様・ご家族ならびに職員みんなで楽しめる行事を今後も企画して行きたいと思っています。また当施設は、歯科医院が併設されている為、治療はもとより、歯の定期検診を実施しております。口腔環境を良好に維持するため、医師・歯科衛生士・職員で連携して取り組んでおります。



## 地域の「かかりつけ老健」を 目指して

マチュアハウス中条  
作業療法士 内山 香

当施設がある胎内市は、新潟県の北東部、新潟市から北に約40kmの位置にある人口3万人の街です。胎内川がもたらした肥沃な土壌を活かした農業が盛んに行われ、里・山・海が一体となつた美しさが魅力の地域です。一方で、高齢夫婦や高齢独居の世帯が年々増え、高齢化率は30%を超えています。また在宅系介護・通所サービス資源が不足している地域でもあります。そのため、「年齢を重ねても役割をもって、地域でいきいきと暮らすこと」が望まれています。

これらの地域特性を考慮し、当施設は、「かかりつけ老健」、「地域密着型老健」を目指した取り組みを行っています。具体的には、今年度より在宅支援プロジェクトチームを立ち上げました。このチームでは、地域で求められる老健のあるべき姿を考えます。また、多職種協働で意見交換を行いながら、老健全体で、「在宅生活支援」ができるような仕組みづくりを行っています。地域の皆様が安心して在宅生活を続けていくために、困ったときに気軽に相談できる老健となれるよう、これからも職員一同尽力していきます。





## 阿賀の庄

通所リハビリテーションご利用者様の作品です。作成期間6ヶ月、瓦も一枚一枚分担で作り、細部までこだわり、立派な神社ができました。毎年、夏祭りの神社としても活用しています。



## 越南苑

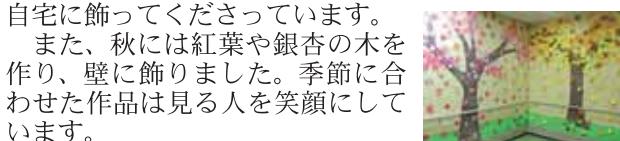
通所リハビリのご利用者様の作品です。趣味でご自宅でも作成されていて、通所リハビリでは折り紙の先生として他のご利用者様に折り方を教えています。それがご本人様の張り合いとなっています。



## 大江山園

通所リハビリでは、新年に向けてねずみの置き物を作りました。大変好評で、完成した置き物は皆さんご自宅に飾ってくださっています。

また、秋には紅葉や銀杏の木を作り、壁に飾りました。季節に合わせた作品は見る人を笑顔にしています。



## グリーンヒル与板

長岡で毎年開催される「すこやか・ともしひまつり」に当施設も参加しております。当日の作品展示に向けてご利用者とともに制作活動を行い、まつり当日は見学に外出しました。

今年は「与板の魅力・良い所」をテーマに制作しました。

「ありがとうの木」の葉っぱ一枚一枚にご利用者の“ありがとうメッセージ”を記しました。



## ケアポートよしだ

毎月季節に合わせた壁の装飾作りを利用者様と行っています。6月は藤の花を立体的に表現しました。紙を切ったり丸めて貼り付けたり、指先のリハビリにもなります。「きれいだね」と会話も弾みます。



## 汐彩の郷

デイケアをご利用の男性2名の共同作品で「七福神」の貼り絵です。1名の方が下絵を描き、もう1名の方が色紙を貼り付け作品を完成させました。この他にもたくさん貼り絵が施設内に展示しており、施設内を賑やかに彩っています。



## 健やか園

玄関を入って、入所棟へ上がるエレベーターの前に、通所リハビリステーションをご利用の皆さんが作ってくれた作品が、季節ごとにバリエーションを変えて並べられています。

来園時はどうぞ『ご自由にお持ち帰りください。』



## マチュアハウス中条

通所リハのご利用者様と職員が談話しながら作製しました。1作品の作成期間は1ヶ月以上掛かるので、出来上がった作品を皆様が楽しそうに鑑賞してくださるのが嬉しいです。



## 編集後記

皆様のご協力により「老健にいがた」第47号を発刊することが出来ました。原稿依頼に際し、快くご協力をいただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

今回の特集では嚥下食レシピ全国コンテストについて取り上げました。食べやすさに加え見た目や香り、盛り付け方など五感で味わう嚥下食の大会です。今回の記事が日々の食事について少しでも参考になれば幸いです。

今後も皆様のお役に立てるような情報を発信していくよう広報委員一同頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

## 「老健にいがた」第47号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会広報委員会

〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522  
介護老人保健施設やまぼうし内  
TEL (0254) 47-3303  
FAX (0254) 47-3370

URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 野崎印刷株式会社